



1

## 全体を通しての気づき

- 現場の協力を得ること（説明と同意、調査倫理、現場負担）
- 「エビデンス」の認識を高めること（現場にも意味と意義フィードバック）
- 比較群の重要性（2時点、Before-After、経時的変化も重要ですが・・・何より群間比較！）
- 介入対象と得られたエビデンス活用の整理と吟味（「適用・応用」範囲の再確認）
- 介入効果は生モノ（効果が続かない～別の課題が生じている可能性！？）  
⇒ 「つくり」「つたえ」「つかう」ことは継続すべきこと（終わらないで欲しい！）

比較群との関係も踏まえて、いかにエビデンスの認識を高めるか？

2

## 今後の予定など

- Web Form によるアンケートをお願いします。  
今後も継続的に情報の提供を希望される方はどうぞメールアドレスを登録ください。
- 是非、日本評価学会に加入して、「社会実験分科会」にも参加ください。  
一緒にやりませんか・・・科学的なアプローチ、知識の醸成、エビデンスの重要性とその理解を促すリーダーシップ

参加者の皆さまには、各現場でのエビデンス活用のリーダーとなって頂きたく、宜しくお願いします。

今日は終日ご苦労さま、どうもありがとうございました。

【日本評価学会-社会実験分科会および協力者(本大会運営チーム)】

田辺智子、津富宏、小林庸平、砂山裕、大島巖、森俊郎、河野撰、正木朋也、佐々木亮